

道 徳

福島県中学校教育研究会道德専門部報 No.5 5

令和5年3月3日発行

発行者 福島県中学校教育研究会道德専門部

責任者 神尾 孝弘

事務局 川俣町立山木屋中学校 (024-563-2104)



あいさつ

福島県中学校教育研究会 道德部長 神 尾 孝 弘

令和4年度から3か年計画で、「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道德の学びはどうあればよいか」の研究主題のもとに、県中教研道德部としての研究がスタートしました。

1年次の今年度は、副主題を「自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる指導方法の工夫」として、県内各支部が一体となって研究を推進して参りました。

5月の主題研修会を受けて、各支部道德専門部長様のご指導のもと、会員の皆様がそれぞれの生徒や地域の実態を踏まえながら、熱意をもって研究実践を進めてこられたことに敬意を表します。

10月の福島県中学校教育研究協議会会津大会（道德部会）は、下郷中学校を会場にして、現地参集とオンライン参加を組み合わせたハイブリット型で開催しました。下郷中学校の中島史弥先生の授業提供や県内代表6名の先生方の実践発表などにより、充実した研究協議会になりました。南会津支部の皆様をはじめ、関わっていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

先日、NHKで、石狩川の源流を訪ねるドキュメンタリー番組が放映されていました。出演者が大雪山系を何日もかけて縦走し、石狩岳上部にある源流で見たものは、岩の間から染み出る小さく静かな水滴でした。降った雨や雪が地中で長い年月をかけて濾過され、水滴となって染み出ているのです。そして、その1滴がいつの日か石狩川という大河になっていくのです。

私たちが、道德教育で子どもたちに育もうとしている「道德性」も、同じなのかもしれません。1時間の授業だけで生徒の道德性を形成することはできないと思います。しかし、1時間の授業で、生徒の心の内面に道德性の1滴をにじみ出させることは可能だと思います。1滴ずつであっても続けていけば、いつか「道德性の川」となって生徒の内面を流れていくのだらうと強く感じました。

令和5年度も、福島県の子どもたちのために、各道德専門部が丸となって「内面的資質としての道德性」を1滴ずつ醸成していけるよう、お願い申し上げます、挨拶といたします。

令和4年度～令和6年度研究主題・副主題について

研究主題（令和4年度～令和6年度）

「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道德の学びはどうすればよいか。」

《研究副主題の概要》

〈令和4年度〉 自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる指導方法の工夫 中学校学習指導要領解説 「特別の教科 道德編」P.83（4）	生徒の感性や知的な興味などに訴え、生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合い、さらに考えを深めることができるように、ねらい、生徒の実態、教材や学習指導過程などに応じた適切な指導方法を研究する。 ・教材を提示する工夫 ・発問の工夫 ・動作化、役割演技など表現活動の工夫 ・板書を生かす工夫
〈令和5年度〉 自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫 中学校学習指導要領解説 「特別の教科 道德編」P.93（2）	生徒が自分自身のものの見方や考え方、感じ方の根拠やよりどころを明らかにする過程を通して自分を見つめ、見直すことのできる指導方法について研究する。 ・対話が深まる話し合いの工夫 ・書いたり発表したりする活動の工夫
〈令和6年度〉 自己の学びと自らの変容を実感することができる評価の工夫 中学校学習指導要領解説 「特別の教科 道德編」P.114（3）	生徒が道德的価値の理解を自分との関わりで深めていることを実感でき、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる、いろいろな評価の方法について研究する。 ・生徒の作文やエピソード、レポートなどの蓄積と活用 ・年間を通した計画的な評価の工夫とその蓄積 ・複数の教師による指導形態の工夫と多面的・多角的な評価の工夫

福島県中学校教育研究協議会 会津大会の概要

- 1 期日 令和4年10月6日(木)
- 2 会場 下郷町立下郷中学校
- 3 公開授業(事前録画)

学年	授業者	単元名・題材名・主題名
3年	中島 史弥	世界平和を考える C-18 国際理解・国際貢献

〈授業構築の視点〉

- ① 自己を見つめる
自己を見つめる時間として、13分間まとめの時間を確保した。
- ② 多面的・多角的に考える
生徒たちが日常生活で感じていることだけで無く、総合的な学習の時間や修学旅行で学んだことを結びつけることで、より多面的・多角的に考えることができるようにした。

4 授業者自評



マララさんが銃撃を受けた後に国連でスピーチを行った事に焦点を当て、どうしてそのような行動をとったか考えることで、生徒自身が、自己を見つめ、世界平和と人類の発展に寄与しようとする道徳的実践意欲と態度を育てることをねらいとした。中心発問について考えるところでは、子どもたちがワークシートに記入する様子をうかがいながらほどよく時間を設けられた。考えをグループで共有する場面では、議論を行う班もあったが、子どもたちにとって中心発問の答えが明白で、そもそも話し合うべき課題となっていない、もしくは、難しい課題でありグループでどう話し合ってもよいのかわからないという状況になっており、活発な議論が多くは見られなかった。マララさんの役割と責任に迫った後、「自分がマララさんだったらどうする」という発問や「一部の人がしかできないの」という発問で、マララさんに自己投影させ、自分自身を振り返り、自己を見つめられる一助とした。

5 県大会研究協議の概要(ハイブリット)

【第2学年分科会】

○発表の概要

〈郡山支部 日和田中学校 蓮沼純先生〉

- ア 支部として、教材を提示する工夫や発問の工夫など、取り組みやすい視点を選び取り組んだ。
- イ ICTの活用は、資料や発問内容の提示の時間短縮をしたり、生徒の意見を生かし比較検討したりするときに有効だった。

〈岩瀬支部 天栄中学校 金成拓哉先生〉

- ア 支部として、指導方法の工夫の中で板書を生かす工夫を重点的に研究した。
- イ ICTや四択の座標軸などの思考ツールを活用した。板書の工夫によって微妙な心情の可視化・共有化を図った。

〈東西しらかわ支部 中島中学校 田代翔平先生〉

- ア 支部として、指導過程の工夫、表現活動の工夫、板書の工夫を重点事項として研究を行った。

イ 板書や思考ツールを生かしたり、自分事として考えさせる場面への転換のタイミングを工夫したりした。

【第3学年分科会】

○発表の概要

〈伊達支部 伊達中学校 川又佐知子先生〉

- ア 意見交換や議論する場を設定し、広い視野から捉えることができるように、発問を含めた指導過程を工夫した。

イ 補助教材や補助資料を活用することは、価値の深まりを促したり、視点を広げて多面的・多角的な見方を育てたりするのに有効だった。

〈石川支部 玉川中学校 高野玲奈先生〉

- ア ふくしま道徳教育資料集「絆」より選定した教材をもとに、グループに分かれて指導案作成を行った。

イ 思考ツールを用いて心情の可視化を図り、交流を行わせることにより、考えを深めることができた。

〈いわき支部 内郷第二中学校 高橋博幸先生〉

- ア 「資料分析図」を共通した研究目標と捉え、発問の工夫に焦点を絞って各学年ごとに共通資料で実践を行った。

イ 資料分析により、発問構成の工夫が容易になり、生徒の反応を予想することで価値に迫る発問を考えることができた。

【指導助言】南会津教育事務所 菅家 崇 主任指導主事

(1) 授業に関して

- ア 共通に体験した修学旅行での学びを基に、生徒が感じたり、考えたりしたことから価値の方向付けを図ったことは、教材を自分事として捉えることにつながった。

イ 課題把握の段階で、価値の方向付けを図るため、現在の自分の立ち位置に気付かせるような発問をしていくことも大切である。

ウ 自分の考えを書くことで思考が整理され、その後のグループでの話し合いに生かされていた。全体での話し合いの場面に生かせるような教師の働きかけが求められる。

- エ 全体での共有場面で、自己を見つめる深まりが見られない場合は、類題を出していくことも考えられる。
- オ 振り返りの時間を十分に確保しようと構想していた。
- カ 振り返りを充実させるために、自己を見つめる視点を与えるようにしてほしい。

(2) 各支部の資料に関して

- ア ICTを活用した実践が多く出されており、よさや課題が明確になってきている。

イ ロールプレイを取り入れた学習は、自分事として捉えさせるために有効である。見ている側の生徒に問い返していくことも重要である。

ウ アンケートや他者へのインタビューを、導入や終末で提示し効果的な活用を図っていた。

エ 思考ツールの活用により、自他の内面の動きを可視化し、多面的・多角的に考えさせていた。



令和5年度の研究副主題について

研究副主題（令和5年度）「自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫」

1 キーワードの捉え方

「自己を振り返る」とは・・・(例)

- ・これまでの自分の生活や考えを振り返る
- ・学んだこと（自他の考え方の違い、自分の思考の変容）を振り返る
- ・新しい見方や考え方（自身のよさや成長も含む）を振り返る

「よりよい生き方についての考えを深める」とは・・・(例)

- ・多様な感じ方や考え方に接する中で、新たな見方や考え方を生み出していく。
- ・道徳的価値を実現することに、どのような意味があるのかを自己との関わりにおいて捉える。
- ・学んだ道徳的価値に照らし、自分の生活を振り返り、自らのよさや課題を把握する。



2 副主題に迫るために

今年度の副主題に迫るため、「生徒が自分自身のものの考え方、感じ方の根拠や理由を明らかにする過程を通して、自己を見つめ、見直すことのできる指導方法」について研究を推進していく。

今年度の研究を進める上では、道徳的価値に対する生徒一人一人の多様な考え方や感じ方を引き出し、自身の考えを深め、判断し、表現できるようにすることが大切な要素となる。そのために、道徳科の授業の中で、言語活動を生かした学習の展開が求められてくる。また、自分自身に問いかけて対話するという視点も大切にしていける必要がある。

（1）対話が深まる話合いの工夫（協働的な議論など）

【期待される効果】

- ・協働的な議論を通して、自他の意見を比較して共通点や相違点を確かめることができる。
- ・時には対立する多様な価値観がある中で、よりよく生きていくための道徳的価値を考え続ける姿勢につながる。
- ・多様な見方や考え方に接しながら、更に新たな視点で自らの考えや生活を見つめ直す。⇒「よりよい生き方についての考えを深める」

（2）書いたり発表したりする活動の工夫（言語活動）

【期待される効果】

- ・書く活動を通して、自身の考え方や感じ方を振り返ることができる。（自分自身との対話）
- ・自分の言葉で表現することにより、道徳的価値を自己との関わりにおいて捉え、内面的に自覚することができる。
- ・自分の考えをまとめ、表現することで、自身の考えを確かめたり、道徳的成長を実感したりすることにつながる。

3 指導法の工夫の例

- 自分の価値観を見つめ直す導入の工夫／考える必然性、切実感をもち、自分事として考える導入の工夫
 - ・事前アンケートの活用／自分事として考えさせる題材の提示／ICTの活用 等
 - 協働的に議論させる指導の工夫
 - ・動作化、役割演技等の表現活動／学習形態の工夫（グループやペアなど）／思考ツールによる可視化／多様な感じ方や考え方を引き出す発問の工夫／多様な価値化に触れる話合い／板書を生かす工夫／ICTの活用 等
 - 自分の価値観がどのように変容したかをとらえさせる終末の工夫
 - ・自分の考えの変容を振り返り、まとめて書く活動／板書を生かす工夫 等
- ※ これらの指導方法の工夫は、授業のどの場面で実践するかは固定せず、教材や生徒の実態に応じて行っていくようにする。大切なことは、特定の価値観の押しつけになることなく、生徒一人一人が道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え、判断することであるとする。

4 付記

会津大会で指導助言をいただいた南会津教育事務所の菅家崇主任指導主事は、次のように話をされていた。

～『『どうするかな？』、『どっちに進むかな？』と大人だって悩みます。子どもならなおさらです。子どもたちは、常に揺れ動きながら学んでいきます。道徳的価値について生徒自らが本音で話し合えるような授業を行い、内面的資質としての道徳性を養っていききたいものです。』～

また、県道徳推進協議会の折、義務教育課の肥沼志帆指導主事から、次のような話をいただいた。

～「小中学校の校種にかかわらず、『自己を見つめる』ことが大きな課題です。どうしても表面的できれい事になってしまいがちです。中学校でも、『子どもと共に考える』という教師の意識の変化や、学級の雰囲気、担任との関係性、発問の工夫で、本音で話し合う授業ができると信じています。そのような授業が数多く実践されると、福島の子どもの道徳性に大きく関わっていくと感じています。」～

※参考資料

- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編／文部科学省
- 令和3年度道徳の礎（いしづえ）／福島県教育委員会
- 学校教育全体をととして行う道徳教育の意義／秋田公立美術大学 毛内嘉威（令和4年度第1回福島県道徳推進協議会資料）

令和5年度（2年次）の研究推進にあたって

（1）各支部主題研修会と県大会参加にあたって

県道徳専門部総会（兼主題研修会）での主題及び副主題についての説明をもとに共通理解を図った内容を各支部会員で共有してください。その内容をもとに、各校の実践研究を行い、支部研究協議会での協議を踏まえて、県研究協議会への参加をお願いします。

（2）県研究協議会の持ち方、発表支部について

- ① 期 日 令和5年10月5日（木） 県中教研研究協議会いわき大会
 ② 会 場 いわき市立小名浜第一中学校
 ③ 発表支部・学年 郡山，北会津（1年） 福島，南会津（2年） 田村，東西しらかわ（3年）

令和4年度 道徳専門部会組織

部 長	神 尾 孝 弘（山木屋中）	支部長	伊 達 金 子 雄 樹（松 陽 中）
副部長	遠 藤 康 成（岩 代 中）	〃	安 達 遠 藤 康 成（岩 代 中）
〃	児 玉 剛 明（川 谷 中）	〃	郡 山 荻 野 由 則（安積二中）
〃	我 妻 雄比古（下 郷 中）	〃	岩 瀬 中 渴 宏 昭（仁井田中）
〃	山 崎 喜 保（内郷二中）	〃	石 川 酒 井 一 憲（ひらた清風中）
総 務	嶺 岸 陽 子（北 信 中）	〃	田 村 酒 井 泰（船 引 中）
庶 務	佐久間 紀 子（清 水 中）	〃	頼しらかわ 児 玉 剛 明（川 谷 中）
研究部	渡 邊 千 穂（福島二中）	〃	北会津 小 林 稔（若松二中）
〃	佐 藤 直 恵（信 夫 中）	〃	耶 麻 武 藤 幸 意（塩 川 中）
〃	瀧 詩 織（吾 妻 中）	〃	両 沼 鶴 水 達 也（三 島 中）
〃	渡 邊 潤 平（平 野 中）	〃	南会津 我 妻 雄比古（下 郷 中）
会 計	佐 藤 芳 江（山木屋中）	〃	相 馬 塙 広 治（原町一中）
支部長 福 島	神 尾 孝 弘（山木屋中）	〃	双 葉 鈴 木 博（富 岡 中）
		〃	いわき 山 崎 喜 保（内郷二中）

令和4年度部会事業の概要

月 日	場 所	要 項 ・ 内 容	月 日	場 所	要 項 ・ 内 容
～5月上旬	各支部	◎支部道徳専門部総会 ○令和3年度事業報告・決算報告 ○令和4年度事業計画・予算案 ○研究内容と研究推進計画 ○役員改選	10/6（木）	会 津	◎県中教研研究協議会会津大会 ＊ハイブリット形式で開催 ○会 場 下郷町立下郷中学校 ○授業者 3年 中島史弥先生（下郷中） ※事前に録画した授業を配信
5/19（木）	福 島	◎県中教研総会 ◎県道徳専門部長会（兼主題研修会） ○令和3年度事業報告・決算報告 ○令和4年度事業計画・予算案 ○研究内容と研究推進計画 ○役員改選 （以下は、主題研修の部分） ○令和4年度研究主題確認 ○研究内容と研究推進計画 ○県研究協議会の運営 ○各支部研究協議会の運営	～10月下旬	事務局 各支部	◎県研究協議会報告書のまとめ （開催地区から県総務へ提出） ◎県研究協議会報告会
～6月	（本部） 各支部	◎主題研修報告会（資料作成・報告） ○支部研究推進の確認	12月～1月	福 島	◎道徳専門部事務局会 （12/21, 1/20） 次年度研究部報（案）の作成
7月下旬	各支部	◎支部研究協議会（夏季） ○研究主題（令和4～6年度） 自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうか ○令和4年次研究副主題 「自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる指導方法の工夫」	2/7（火）	オンラ イン	◎研究推進委員会（専門部長会） ○会場 川俣町役場（県北のみ参集） ○内容 部報（案）研究副主題解説等の検討
			2月下旬	事務局	◎道徳部報第55号編集完了 ◎事務局会 ○令和4年度事業・会計のまとめ ○令和5年度事業・予算
			～3月	各支部	◎道徳部報第55号 HP 掲載 ◎支部研究のまとめと次年度計画